



平成27年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月9日

上場会社名 株式会社ヒト・コミュニケーションズ 上場取引所 東  
 コード番号 3654 URL http://hitocom-ir.com/ir/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)安井豊明  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理財務本部長 (氏名)安川徳昭 (TEL) (03)5952-1219  
 四半期報告書提出予定日 平成27年7月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

1. 平成27年8月期第3四半期の連結業績(平成26年9月1日～平成27年5月31日) (百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第3四半期	19,354	15.5	1,751	5.1	1,757	5.3	985	8.4
26年8月期第3四半期	16,751	11.7	1,665	22.6	1,669	22.4	909	22.7

(注) 包括利益 27年8月期第3四半期 984百万円(8.4%) 26年8月期第3四半期 908百万円(22.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第3四半期	110 11	—
26年8月期第3四半期	101 58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第3四半期	9,592	6,415	66.7
26年8月期	8,585	5,694	66.3

(参考) 自己資本 27年8月期第3四半期 6,399百万円 26年8月期 5,694百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	11 00	—	11 50	22 50
27年8月期	—	11 50	—		
27年8月期(予想)				11 50	23 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,500	14.7	2,000	4.9	2,005	4.8	1,120	7.2	125 14

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社(社名)、除外 — 社(社名)  
(注) 特定子会社の異動には該当いたしません。株式会社ティーシーエイ、株式会社ジャッツ及び株式会社WSSスタッフィングを第1四半期連結会計期間より連結子会社としております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年8月期3Q	8,950,000株	26年8月期	8,950,000株
27年8月期3Q	292株	26年8月期	292株
27年8月期3Q	8,949,708株	26年8月期3Q	8,949,708株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 決算補足説明資料は、作成後当社ホームページに速やかに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策等により、雇用・所得環境の改善傾向が継続していることから、個人消費に持ち直しの兆しがみられ、原油価格下落の影響や各種政策等の効果により企業収益にも改善の動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループが属する営業支援系アウトソーシング業界においては、雇用関連の各種指標の持続的な改善により、小売・サービス分野における人手不足は深刻化している一方で、企業の人材採用意欲は依然旺盛であることから、当社グループが提供する各種人材サービスに対するニーズは引き続き堅調に推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは取扱商材分野を家電、ブロードバンド、モバイル、ストアサービス、観光、コールセンター他の6区分<sup>(注1)・(注2)・(注3)</sup>に分類しており、従来中心としていた家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野に加え、ストアサービス分野、観光分野、コールセンター他分野の営業強化により、すべての取扱商材分野をバランスよく成長させることでポートフォリオを充実させ、繁閑や商材のライフサイクルによる影響を最小限にとどめて経営基盤の安定を図っております。

家電分野におきましては、冷蔵庫、洗濯機、エアコンといった白物家電の販売が平成26年4月の消費税増税後の需要減少の影響が一巡し増加に転じたほか、調理家電、理美容家電等においても、省エネ・健康志向の高まりを受けて引き続き高付加価値商品の販売が好調に推移するなど、消費者との接点を担う販売員に対する需要は高まっております。

ブロードバンド分野におきましては、平成27年3月末時点の国内のブロードバンドサービスの契約数が1億2,404万件（前年同月比138.3%<sup>(注4)</sup>）、そのうち平成27年3月末時点のF T T Hアクセスサービス（光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス）の契約数は2,660万件（前年同月比105.1%<sup>(注4)</sup>）となっており、当社グループが主たるマーケットとする光回線市場についても、契約数の増加が継続している状況であります。一方で一部通信事業者による光回線の卸売サービスが開始されたことから、新規参入事業者も含めて当該分野における専門性の高い販売員に対する需要は底堅く推移しております。

モバイル分野におきましては、平成27年4月のスマートフォン等の携帯電話の国内出荷台数については100.9万台（前年同月比92.8%<sup>(注5)</sup>）と前年同月比を下回ったものの、スマートフォンと連携したウェアラブル端末の新商品の販売、タブレットP Cの販売増加を背景とした次世代高速無線通信への契約加入の需要も相まって、当該分野における販売支援に対する需要は高い状況が続いております。

観光分野におきましては、中近東・欧州の情勢不安に加え、円安基調の継続により海外旅行が伸び悩んだものの、国内旅行については北陸新幹線の開業等を背景に需要が底堅く、平成27年4月分の主要旅行者の旅行取扱額総額は4,460億円（前年同月比103.4%<sup>(注6)</sup>）と前年を上回る需要を維持しております。また、東南アジア諸国のビザ発給要件の緩和や消費税免税制度の拡充もあり、平成27年の訪日外国人旅行者数は過去最高を記録した平成26年の数値を上回る人数で推移しており、訪日外国人旅行者に対する通訳ガイド、販売支援、多言語対応等のニーズは急速に高まっております。

このようなマーケット状況のもと、当社グループは「付加価値ビジネスの創造と追求」を合言葉に、アウトソーシングサービスを牽引するリーディングカンパニーとして、クライアントのニーズに成果で応える「成果追求型営業支援」の実践を継続いたしました。

その実践として、既存の家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野の販売受託事務局の収益改善に取り組むとともに、前連結会計年度に引き続きセールスプロモーション提案の強化、ストアサービス分野及び観光分野の営業強化に注力いたしました。その取り組みとしてストアサービス分野においては、食品・コスメティック・ファッション販売等における人材ビジネスへの取り組みを強化し、観光分野においては、関東及び東北エリアを基盤とする観光人材サービス会社である株式会社ジャッツを子会社化し営業基盤の強化を図りました。また、多言語コールセンター、免税カウンターの運営受託を開始する等、増加する訪日外国人旅行者に対する対応力強化を図りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,354,813千円（前年同期比15.5%増）、営業利益は1,751,064千円（前年同期比5.1%増）、経常利益は1,757,332千円（前年同期比5.3%増）、四半期純利益は985,430千円（前年同期比8.4%増）となりました。

## (アウトソーシング事業)

アウトソーシング事業におきましては、家電分野、ブロードバンド分野及びモバイル分野を中心とした販売受託事務局<sup>(注7)</sup>の受注に向けた提案及び収益改善を継続するとともに、セールスプロモーション提案によるキャンペーン受注の獲得及びストアサービス分野・コールセンター他分野における営業アウトソーシングの受注強化に取り組み、新たな成長の柱の育成に注力いたしました。

上記取り組みにより、全国においてウェアラブル端末の販売を業務内容とする販売受託事務局を新規に受注したほか、関西地区において前連結会計年度に受注規模が拡大した販売受託事務局の案件が売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は13,002,480千円（前年同期比7.0%増）、営業利益は1,464,577千円（前年同期比5.1%増）となりました。

## (人材派遣事業)

人材派遣事業におきましては、観光分野、ストアサービス分野を中心に、幅広い取引先からの案件の新規受注獲得に取り組みました。観光分野におきましては、新たに第1四半期連結会計期間より連結子会社となった株式会社ティーシーエイ、株式会社ジャッツが売上高の増加に寄与したほか、新規領域である展示会、コンベンション、スポーツイベント運営等の案件受注が増加しました。また、ストアサービス分野におきましては、食品・コスメティック・ファッション販売等における人材派遣案件の受注が増加したほか、大手GMS・食品スーパーにおける新規出店等による需要拡大に伴い、レジ業務、生鮮技師、オール電化・住宅リフォームの販売受付等幅広い職種での人材派遣案件の受注も増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,211,855千円（前年同期比36.1%増）、営業利益は269,736千円（前年同期比2.1%減）となりました。

## (その他)

その他におきましては、ブロードバンド分野において、東日本・西日本両エリアで販売教育研修の案件を前連結会計年度に引き続き受注いたしました。また、第1四半期連結会計期間より連結子会社となった株式会社ティーシーエイが売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は140,477千円（前年同期比365.7%増）、営業利益は30,537千円（前年同期比201.2%増）となりました。

- (注) 1 当社グループは、第1四半期連結会計期間より、取扱商材分野別の売上高において従来の「コールセンター他」分野に区分していた観光市場における人材サービスに関する売上高を「観光」分野として独立させ表記しております。
- 2 アウトソーシング事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	・デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売 ・生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売
ブロードバンド	・固定通信回線（光回線等）への加入促進業務 ・インターネットサービスプロバイダーへの加入促進業務
モバイル	・携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売 ・次世代高速無線通信への加入促進業務
ストアサービス	・生鮮食料品やコスメティック・ファッションの販売 ・カードの加入促進業務等
観光	・バスガイド業務 ・展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他
コールセンター他	・各種受付コールセンター業務 ・訪日外国人向け多言語コールセンター、免税カウンター ・流通、小売サービスセンター業務 他

- 3 人材派遣事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	・デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売 ・生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売
ブロードバンド	・通信回線獲得アウトバウンド
モバイル	・携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売 ・次世代高速無線通信への加入促進業務
ストアサービス	・生鮮食料品やコスメティック・ファッションの販売 ・金融、カードビジネス窓口案内、カード会員の獲得
観光	・国内旅行・海外旅行添乗業務、バスガイド業務 ・展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他
コールセンター他	・コールセンター業務 ・品出し、流通バックヤード業務 ・営業事務、貿易事務、経理事務 他

- 4 (出典)：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表（平成26年度第4四半期（3月末）」より
- 5 (出典)：(社)電子情報技術産業協会「移動電話国内出荷実績」（平成27年4月）より
- 6 (出典)：観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」（平成27年4月）より

- 7 当社グループは、アウトソーシング事業においてブロードバンド商材及びモバイル商材等を販売する際に、クライアントの課題・施策を共有し、解決するために「販売受託事務局（ヒト・コミュニケーションズ事務局）」をクライアントごとに設置しております。当該事務局は、クライアントとの交渉窓口や販売施策の立案等を行う事務局長の下、各売場にてスタッフへの指示命令を行うディレクターを配置し、インターネットや固定通信事業等に精通したスタッフから組成されています。各販売受託事務局は、スタッフの採用、研修制度の構築、販売カリキュラムの作成、販売現場のラウンディング（巡回）、クライアントへの販売状況のフィードバック等、商品販売の一連の業務を行っております。

それによりクライアントは、スタッフの管理負担及び教育負担の軽減が図れ、販売現場とマーケティング機能を分離することによる効率化等のメリットを享受することができ、クライアントの業績の向上につながっているものと考えております。

当第3四半期連結累計期間における取扱商材分野別の売上高の概況は以下のとおりであります。

なお、当社グループは第1四半期連結会計期間より、取扱商材分野別の売上高において従来の「コールセンター他」分野に区分していた観光市場における人材サービスに関する売上高を「観光」分野として独立させ表記しております。以下の前年同期比較については、前第3四半期連結累計期間の数値を変更後の取扱商材分野に組み換えた数値で比較しております。

(a) 家電

家電分野におきましては、商戦期のキャンペーン案件の獲得に向けた営業活動を実施した結果、デジタル家電の販売を中心に満遍なくキャンペーン案件の受注が好調に推移し、主要なクライアントである総合家電メーカーにつきましても、常勤稼働の人材派遣案件の受注が回復いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,643,915千円（前年同期比16.1%増）となりました。

(b) ブロードバンド

ブロードバンド分野におきましては、既存の販売受託事務局における収益改善に取り組むとともに全国各地において販売受託事務局の新規獲得に向けた提案営業、契約条件の改善に向けた条件交渉を実施いたしました。

上記取り組みにより、埼玉地区において販売受託事務局の受注規模が拡大したほか、関西地区において前連結会計年度に受注規模が拡大した販売受託事務局案件が売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,101,907千円（前年同期比1.8%増）となりました。

(c) モバイル

モバイル分野におきましては、セールスプロモーション営業部と連携し商戦期のキャンペーン案件の受注に向けた営業活動を強化いたしました。

その結果、全国においてウェアラブル端末の販売を業務内容とする販売受託事務局を新規に受注しましたが、常勤の人材派遣契約における案件の受注規模の縮小による売上高の減少を補うことができませんでした。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,404,892千円（前年同期比11.8%減）となりました。

(d) ストアサービス

ストアサービス分野におきましては、新規顧客に対する営業強化によりサービス取扱商材の拡大を図った結果、食品・コスメティック・ファッション販売等における案件の受注が増加いたしました。また、大手GMS・食品スーパーにおける新規出店等による需要拡大に伴い、レジ業務、生鮮技師、オール電化・住宅リフォームの販売受付等幅広い職種での人材派遣案件の受注も増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は980,032千円（前年同期比40.1%増）となりました。

(e) 観光

観光分野におきましては、従来の添乗・ガイド案件の受注が堅調に推移したほか、当社グループ拠点網の活用、子会社との営業情報共有等の事業シナジーにより、新規領域である展示会、コンベンション、スポーツイベント運営等の案件受注が増加いたしました。

また、第1四半期連結会計期間より連結子会社化した株式会社ティーシーエイ、株式会社ジャッツが売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,269,845千円（前年同期比232.6%増）となりました。

(f) コールセンター他

コールセンター他分野におきましては、コールセンター市場において、前連結会計年度に引き続き大手通信会社からの案件受注が好調に推移いたしました。また、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する流通各社に対して、多言語コールセンター及び免税カウンターの運営受託に向けた提案営業を実施した結果、首都圏エリアにおいて免税カウンター運営の大型案件を受注いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,954,219千円（前年同期比53.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末に比較して1,006,828千円増加して、9,592,290千円(前連結会計年度末比11.7%増)となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比較して1,177,473千円増加して、6,895,344千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加354,990千円、売掛金の増加711,082千円(うち、新規連結子会社による影響額267,730千円)等があったことによるものであります。

また、固定資産の残高は、前連結会計年度末に比較して170,645千円減少して、2,696,946千円となりました。主な要因は、のれんの増加414,004千円、関係会社株式の減少246,040千円及び関係会社長期貸付金の減少170,544千円等の連結範囲の変更に伴う連結処理による増減のほか、投資有価証券の減少168,517千円等があったことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の残高は、前連結会計年度末に比較して286,299千円増加して、3,177,225千円(前連結会計年度末比9.9%増)となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比較して281,568千円増加して、2,999,197千円となりました。主な要因は、短期借入金の増加200,000千円、未払金の増加118,150千円等がありましたが、未払法人税等の減少173,877千円等があったことによるものであります。

また、固定負債の残高は、前連結会計年度末に比較して4,730千円増加して、178,028千円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債の増加6,952千円等があったことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末に比較して720,529千円増加して、6,415,065千円(前連結会計年度末比12.7%増)となりました。主な要因は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加985,430千円がありましたが、剰余金の配当による利益剰余金の減少205,843千円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年8月期の連結業績予想につきましては、平成26年10月10日公表の数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当第3四半期連結会計期間の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年9月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年9月1日から平成28年8月31日までのものは33.1%、平成28年9月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は5,932千円減少し、法人税等調整額が5,932千円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,652,882	3,007,872
売掛金	2,911,143	3,622,226
有価証券	—	99,900
前払費用	40,341	57,570
繰延税金資産	83,323	85,789
その他	30,180	21,985
流動資産合計	5,717,871	6,895,344
固定資産		
有形固定資産		
建物	798,851	815,210
減価償却累計額	△149,414	△189,919
建物(純額)	649,436	625,290
工具、器具及び備品	105,130	108,151
減価償却累計額	△86,188	△95,077
工具、器具及び備品(純額)	18,941	13,074
土地	1,272,197	1,272,197
有形固定資産合計	1,940,575	1,910,562
無形固定資産		
のれん	20,866	434,870
ソフトウェア	34,541	34,823
その他	1,882	4,892
無形固定資産合計	57,289	474,587
投資その他の資産		
投資有価証券	256,255	87,738
関係会社株式	246,040	—
関係会社出資金	5,357	5,357
関係会社長期貸付金	170,544	—
敷金及び保証金	112,426	140,291
繰延税金資産	64,435	64,364
その他	14,666	14,044
投資その他の資産合計	869,725	311,796
固定資産合計	2,867,591	2,696,946
資産合計	8,585,462	9,592,290

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	150,000	350,000
未払金	1,331,518	1,449,669
未払費用	37,121	55,330
未払法人税等	542,002	368,124
未払消費税等	425,944	486,709
預り金	95,403	163,563
賞与引当金	70,622	78,598
役員賞与引当金	11,650	—
資産除去債務	3,200	4,813
その他	50,166	42,389
流動負債合計	2,717,628	2,999,197
固定負債		
役員退職慰労引当金	69,186	73,032
退職給付に係る負債	21,012	27,964
資産除去債務	22,954	19,853
その他	60,144	57,178
固定負債合計	173,298	178,028
負債合計	2,890,926	3,177,225
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	737,815	737,815
資本剰余金	609,788	609,788
利益剰余金	4,347,575	5,051,889
自己株式	△164	△164
株主資本合計	5,695,015	6,399,329
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△479	296
その他の包括利益累計額合計	△479	296
少数株主持分	—	15,440
純資産合計	5,694,536	6,415,065
負債純資産合計	8,585,462	9,592,290

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
売上高	16,751,916	19,354,813
売上原価	12,864,562	14,914,704
売上総利益	3,887,354	4,440,109
販売費及び一般管理費	2,221,682	2,689,044
営業利益	1,665,671	1,751,064
営業外収益		
受取利息	252	399
有価証券利息	1,414	2,100
受取地代家賃	3,060	3,060
雑収入	558	3,285
営業外収益合計	5,285	8,845
営業外費用		
支払利息	1,204	1,508
債権売却損	284	443
雑損失	—	625
営業外費用合計	1,488	2,577
経常利益	1,669,468	1,757,332
特別損失		
固定資産除却損	—	219
事務所移転費用	—	352
関係会社出資金評価損	12,881	—
特別損失合計	12,881	571
税金等調整前四半期純利益	1,656,587	1,756,760
法人税等	747,457	773,081
少数株主損益調整前四半期純利益	909,130	983,679
少数株主損失(△)	—	△1,750
四半期純利益	909,130	985,430

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	909,130	983,679
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△814	775
その他の包括利益合計	△814	775
四半期包括利益	908,315	984,455
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	908,315	986,205
少数株主に係る四半期包括利益	—	△1,750

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,156,683	4,565,068	16,721,751	30,164	16,751,916	—	16,751,916
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	12,156,683	4,565,068	16,721,751	30,164	16,751,916	—	16,751,916
セグメント利益(注)1	1,393,686	275,633	1,669,320	10,138	1,679,458	△13,786	1,665,671

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,002,480	6,211,855	19,214,336	140,477	19,354,813	—	19,354,813
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	36,353	36,353	—	36,353	△36,353	—
計	13,002,480	6,248,208	19,250,689	140,477	19,391,166	△36,353	19,354,813
セグメント利益(注)1	1,464,577	269,736	1,734,313	30,537	1,764,851	△13,786	1,751,064

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。